婦人衛生雑誌

大正九年五月三十日發行

第三百五十三號

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衞生雜誌

第三百五十三號目次

講演

○戰時歐米巡遊雜感　法學士　山田準次郎

叢談

○外科叢談　ドクトル　吉川春次郎

○帶と衞生　入澤常子

○榮養分の研究　シャーマン

育兒

○子供の育て方　ドクトル　三田谷啓

家庭衞生

○小兒疾病と自然治癒　醫學士　志摩次郎

○看病の心得　吉岡彌生

○主婦の任務（承前）　メリー、ルイス、フースト

雜錄

○女子醫學專門學校の光榮

○服裝改良案

○ナイチンゲル記念祭

○國際兒童保護事業案

會報

○本會五月例會○入會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹告

會費未納の御方は何卒本會事務所宛御送金被下度願上候
前金切れの御方も此際本年十二月迄の分御送金被下度候也
本會の振替金口座番號は東京一〇六〇〇番

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地
私立大日本婦人衛生會事務所

◎王冠印分娩具

御産ニナクテナラナイ種々
必要ナ王冠印分娩具◎

高砂印	九圓七拾錢
福ろく印	七圓八拾錢
壽印	六圓
鶴印	四圓五拾錢

荷造料送料共八拾六錢

大正博覧會ニ於テ褒状授領

東京市小石川區茗荷谷町六〇
阿部商店
電話小石川三四二一番
振替口座東京三二九二〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや知識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんことを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら擧るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

(明治三十二年十二月改正)

第一條　目的本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の知識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す。入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金貳拾五圓以上特別會員は一ケ月金五拾錢以上、通常會員は一ケ月金參拾錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、理事七名、評議員二十五名、本會書記若干名●第十一條　會長副會長理事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は理事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故あるときは之を代理し理事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る理事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ケ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長理事評議員は無給とす書記は相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會會場に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得(但衣服は總て質素たるべき事)●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第二十一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算竝に庶務の概要會員の増減等を報告すべし●第二十二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第二十三條　會計の收支は總て會計擔任の理事の檢印を要するものとす●第二十四條　會計は一ケ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●二十五條　地方に於て本會會員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第二十六條　本會會員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし附後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第二十七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第二十八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第二十九條　支會は集會の都度其状況を本會に報告すべし●雜件●第三十條　本會は隔月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第三十一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會會長の名を以て謝状を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第三十二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし(郵券送一割増)●第三十三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局(本郷區駒込千駄木町郵便取扱所宛)振出しあるべし●第三十四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地　私立大日本婦人衛生會

講演

戰時歐米巡遊雜感

法學士　山田準次郎

私は御婦人方の前で御話を致したことは生れて一度あるばかりでありまして、今度が二遍目でどういふ事を御話申してよいか分りませぬですが、私の樣なものゝ話でも聞いてやらうといふ長谷川さんの御話でありますし、殊に長谷川理事は私の最も尊敬して居る友人の長谷川久一君の御母樣でありまして其の御話に背くのは何か母の命にでも背く樣な考で早速御請け致したのであります、御請けは致しましたがどういふ事を御話申して宜いか分りませぬから、私は一昨年から昨年の春にかけまして、歐米各國の戰時の模樣を視て廻りまして、それから復七年の暮から今年の三月迄陸軍の用事で西伯利亞の各地を廻つて來たのであります、それで幾らか日本の婦人と外國の婦人といふものに就て、別に研究致した譯でもありませぬが、自ら斯ういふ點が違つて居るなと感じた事もありますので、其の事に就て一二申上げてみたいと思ふのであります。

先づ私共は斯ういふ風に考へて居つたのであります、一體人間には自ら持つて生れた天職がある、殊に男に生れゝば男の天職があり、女ならば女としての自然に備はる職分がある、夫れは所謂良妻賢母で、人の妻となつたら能く内助の效を奏し、母となつては立派なる子供を育てる、是れが天職であつて其の事さへ濟ませば女と生れたものゝ義務は濟んで居る、又夫れ以外の事をするのは出しやばり過ぎた話である、斯ういふ風に私は大體考へて居つたの

であります。

所が段々外國あたりの模樣を見ますと中々さうでない、大體に於て私は日本の婦人といふものを、外國を廻る前よりも有難く思ふやうになつた、で私共は友人と倫敦で或料理屋で宴會があつた、其の席で段々さういふ話が出て、どうも歐羅巴の男みたいに女に攻められて居つてはやり切れない、吾々は日本に生れてよい事をした、日本の男に生れた御祝に乾盃しやうじやないかといふことになりまして、日本に生れたといふ祝盃を擧げた次第であるのであります、殊に方々廻つて見ると何から何まで自分でしなければならぬ、誠に五月蠅くて適はない、外國へ行つて來ると行儀が良くなつて、自分で色々することにして奥さんを大事にするやうになるといふ話も聞いたのでありますが、私共は實は其の反對でありまして、非常な不便を感じたので、歸つたら一年分餘計に使つてやらう、其の埋め合はせをしやうといふ考で我慢して色々したのでありますが、歸つて來たら三四年の中に取返へす積で居ります、さういふ風に考へて來ましたけれども、併しまあ外國の女といふものを他の人ほど有難がらずにも歸つて來た、まあさういふ譯でありますが、外國では先程申しました樣に、所謂女の天分としては良妻賢母といふ事が根本になつて居るばかりではない、といふ風に考へるのは、第一は女が職業に從事するものが多いといふ事である、是れは女として仕合せのことであるか不仕合せの事であるか、恐らく仕合せの事ではないだらうと思ふのでありますが、實際の必要に觸れてさういふことになつた。

是れは我國に於きましても、段々文明が進むに伴れてさういふ傾向になることはないでありませうか、若しさういふ事があれば豫め覺悟して居らなければならぬと思ふのであります、從て敎育等に致しましても、所謂良妻賢母主義の敎育だけで是れからの時勢に對することが出來るか、言換へれば尙ほ職業敎育といふことを重んじなければならぬとい

ふことはないかと考へたのであります、で段々世の中の進むに伴れてお嫁に行くといふ事が六ケしくなる、それから嫁に行つても場合によると夫婦共嫁をしなければ食つて行かれないことも段々多くなる、又夫に死別れるといふことがあつた時、日本の從來の制度で見れば、是れは他の厄介になる、—親類の所へ行つて厄介になつたのでありますが、段々家族制度といふものが薄らいで來る樣になると、人の所の厄介になり難くなる、段々工合が惡く—居心地が惡くなつて來る、さうすれば自然嫁に行かれない場合には働いて食はなければならぬ、嫁に行つても夫に死別れたら働かなければならぬ、斯ういふ事が是非起つて來るであらうと思ふ、それで矢張り此の女子の教育といふものも、單に何時でも嫁に行ける、行つたら何時でも金は人が儲けて呉れる、自分は夫れを使つてさへ居れば宜いといふ譯には行かぬ、さういふ萬一の場合には自分で金を儲けなければならぬ、自然金を儲けるといふことを覺えなければならぬことになるであらうと思ふ。

で單に教育の方針が良妻賢母といふだけでは足らずして、或職業を覺えさす、必要の場合には獨立して食つて行かれるだけの技倆を覺えて居るといふことが、段々必要になつて來るであらうと思ふ、是れは日本等では未だ先程申しました樣に、女は良妻賢母として夫れを守つて行けばよいといふのが多いのでありまして、自分で働かなければならぬといふのは割合少いので、今の所では大した必要もないのでありますが、段々さういふ必要が起つて來るであらうと考へられるのであります。

其の事に就て私は或本に就て此の統計を見たのであります、是れは外國の統計でありますが、日本に於きましても幾らかさういふ傾向がありはせぬかと思ふので、御參考迄に御話申したいと思ふのであります、が併し是れには數字が大分這入りますので、面白くないかも知れぬが、暫く御聽きを願ひたいと思ひます、是れは獨逸の御話でありますが、獨逸で

一千八百九十五年、――今から二十四五年前に國勢調査をして、色々の統計を取りました、それから其後十二年ばかり經ちまして、一千九百七年に矢張り國勢調査をして統計を取つた、其の二邊の統計の比較でありますが、一千九百七年の時の調査によりますと、女で一定の業務に從事して居る者――詰り家に居つて良妻賢母として座つて居るのでなくして、職業に就いて居るものが八百二十四萬三千四百九十八人あつたのであります、で其の比例は全人口に對する三十%、三五――約三分の一――婦人の約三分の一は一定の業務に就て稼いで居る人であります、是れが一千八百九十五年――其の十二年前の統計に比べると、一千八百九十五年には婦人の人口の二十四%、六――約四分の一が職業に從事して稼いで居る、言換へますと十二年の間に四分の一稼いで居つたものが三分の一稼がなければならぬ様になつたといふことになつて居ります、それで其の増加の割合を見ますと、實數で二百九十七萬九千百五人殖えて居る、之を比例で申しますと五十六%、五九――即ち約五割―増加して居るのであります、十二年の間に稼ぐ人の數が五割増した、全人口との比例では三分の一が四分の一になつた、それで一千八百九十五年から一千九百七年の十二年間に、獨逸で人口の殖えましたのは比例數で一割九歩、――十九%、二二――即ち一割九歩の増加であつたのでありますが、稼ぐ婦人の増加は二十九%、一六で、人口の増加よりも稼ぐ人の増加が非常に多い、さうして稼ぐ人の増加といふものは女の稼ぐ人の増加であるのであります、男の稼ぐ人は人口の殖える割合に殖えるのであつて、始めから稼げる人は稼いで居るのでありますから餘り殖えぬが、女は段々稼ぐものが殖えて來る、其の割合は男の増加は人口が一割九歩増加したと同じ様に稼ぐ人も一割九歩殖えたゞけだが、女の方は先程申上げた様に五割餘殖えて居る譯になつて居るのであります。

で斯ういふ風に女が稼がなければならぬといふ事

は段々世の中の進歩に伴れて殖える様でありますが、此の女が段々稼がなければならぬ様になる中で、又内譯をして見ますと、未婚の者――未だお嫁に行かないもの丶増加はどうであるかと云ひますと、一千八百九十五年に未婚で何か業務に從事して居りましたものが四百五十四萬五千八百二十四人である、其の時婚齡――嫁に行つても宜い年齡――卽ち滿十六歲以上の者が五百八十八萬五千八百五十三人ある、未婚の從業者の中にも幼年の勞働者、十六歲以下の者もありますが、是等を差引いて婚齡に達して業務に從事して居る者が三百九十四萬七百十一人ある、其の割合は六十六%、九五、詰り六割七分は婚齡に達して居る、商業の事務所に出るとか、電話交換局に行くとか、郵便局に行くとかいふ様な業務に從事して居る者の六割七歩は婚齡に達して居る、千九百七年となりますと幾らか殖えたのでありますが、大した相違はない、未婚の婦人六百六十二萬四千九百二十五人ある、其の中で婚齡に達して居るもの――十六歲以上のものは四百七十六萬五千九百七十四人、其の割合は七十一%、九四――約七割二步といふものは婚齡に達して職業に從事して居る、是れは一千八百九十五年卽ち十二年前と比べると幾らか殖えて居りますが大したことはない。

其の次には寡婦の從業者はどうであるかといふと、一千八百九十五年と一千九百七年とは餘り違はない、約四割餘のものが從業者である。

夫れから既婚の婦人――お嫁に行つて現在夫のある婦人の業務に從事して居るもの、是れは一番殖えて居る、未婚の婦人、寡婦の從業者の增加よりも、お嫁に行つて現に夫のある人で而かも職業に從事して居るといふものが殖えた、それは一千八百九十五年に既婚の婦人八百七十八萬四千五百八人、其の中業務に從事して居るものが百五萬七千五百九十五人其の割合十二%、〇四――卽ち一割二步ばかり業務に從事して居る、遉に一番少い、其後十二年經つて一千九百七年には、既婚の婦人の總數一千八百十二萬

千九百人の中、二百八十一萬七千九百九人、其の率は二割六歩、〇四、即ち十二年前に一割二歩でありましたのが二割六歩ばかり、其の増加は倍以上になつた、十二年の間に倍以上になつた、斯ういふ結果になつて居るのであります。

そこで我日本に於きましても、段々斯ういふことになりはしないか――幾らかさういふ方向に向つて進むといふことがありはせぬかと思ふのであります、若しさういふことゝすれば、矢張り日本でも女であると云つて、單に良妻賢母として、支度をするのみならず、一定の職業を得るといふことに就て考をしなければならぬ、國の敎育としましてもさういふ良妻賢母としてばかりの敎育でなく、職業敎育といふ事に倘ほ力を盡す必要がありはせぬか、斯ういふ事を一つ考へたのであります、是れは私が内地にばかり居りました時は、厳格な女といふものは家にあつて内助の功を奏しさへすれば宜しいといふ考を持つて居つたのでありますが、幾らか方々の事情を見て參つて、我國でもさういふ事を考へて用心しなければならぬ、殊に家族制度が段々薄れて人の厄介になることが、六ケしくなる、又さう厄介になるべきものでもないことを考へてみますと、若い女子の敎育としては職業敎育といふ事も餘程深く考へなければならぬといふことを考へて來たのであります、夫れがまあ第一の感想であります。

それから次に此の戰爭に就て考へたのは、此の戰時に方々廻つて見ますと、婦人は戰爭に就てどういふ任務に盡して居るか、で倫敦に參りましても殆ど男といふものは年寄か子供か、それでなければ負傷して跛行を引いて歩いて居るといふものであつて、あとは女ばかりである、女が電車の車掌もすれば、丁度斯ういふ男の穿く様な「ズボン」を穿いて馬車等を追つて居る、さうして工場に行けば大抵の仕事――細かい仕事ばかりでなく殆ど力業とも云ふべき仕事まで女がして居る、旋盤を廻すとか、轆轤の様なもので鐵を削る様な、隨分男でも容易でない仕事、

さういふ仕事もする、石炭焚きの様な事もやつて居る、百姓は勿論である、それから佛蘭西に行つて見ましても、私が佛蘭西へ行きましたのは「ルアーブル」といふ港でありましたが、矢張り電車は運轉手まで女がして居る、車掌は隨分女がして居るが運轉手まで女がして居つた、日本の婦人といふものを隨分私は有難いと思つて來たのですが、併しさういふ事が出來るかどうか、長い著物を著てブワ／＼して居つては、大勢込合つて居れば車掌も六ケしい、況して運轉手などは餘程六ケしいであらうと思つたのです、さういふ鹽梅で隨分有らゆる勞働まで女が引受けて、男子は外に出て戰爭に從ふといふことになつて居るのであります、で英吉利や佛蘭西は私は通つたゞけでありましたが、瑞西に參りまして此所に半年居りまして、新聞雜誌其他種々のもので獨逸の內部の模樣を調べたのであります、是れは內部に這入つた譯ではない獨逸の國境までは行きましたが踏込まなかつた、併しさういふ書物などで調べた所によりますと、隨分やはり聯合國以上に何でもして居る樣でありました、獨逸は御承知でもありませうが祖國補助勤務法といふ法律を出して、十六歲以上六十歲以下の男子といふものは、總て祖國の補助勤務といふのに服しなければならぬ、祖國補助勤務といふのは何であるかと云ふと、戰線に出て戰爭するのは勿論戰線に出ないでも、戰爭に必要な仕事を何かしなければならぬといふことになつた、或は百姓をして食糧を造る、或は工場に這入つて軍需品製造に從事し、或は糧食其他軍需品の運搬に從事する、其他何事でも此の戰時になくてならない仕事を何かしなければならぬ、其の人が資產があるから働かぬでも宜いといふことで遊んで居つてはならぬ、總ての人が何か働かなければならぬ、而かも其の働くのは何か戰爭に必要なことでなくてはいかぬ、戰時になくて宜いことではならぬ、さうして女子には其の義務がない、規則では無いことになつて居る、さういふ風にして總ての男子を戰爭に必要な

る仕事に服さすことにしたのであります、茲に段々戰爭が進むに伴れてそれでは足りない、そこで女の人には義務としては命じないが、段々勸誘して總べて何か戰時に必要な業務に就かす、自分の家政上差支ないからと云つて遊ばせて置かないことに勸誘した、其の勸誘が段々進んで行つて、終ひには大學に居る女學生にまで、軍需品工場に行つて勞働するやうに勸めた、又段々さういふ人が出來て來た、獨逸あたりでは先程申した樣な女子の職業といふことが必要な關係で大學あたりにも隨分大勢の女學生が居るが、是等にも勸めて軍需品工場に這入つて軍需品の製造に從事さすことにする、殊に私が茲に新聞の切拔きを持つて來ましたが、伯林の○○新聞の切拔きでありますが、「何故私が軍需品工場に這入ることになつたか」、斯ういふ標題で獨逸のゲハイムラート――直譯すれば樞密顧問といふことであります、日本の樞密顧問とは少し違ひますが兎に角高等官以上のものである、其娘が伯林の醫科大學の學生であつたが、其れが軍需品工場に行つて勞働者となつて軍需品の製造に從事した、それに對してユーリ、エリヤスといふ婦人が寄書して之を攻擊した、其の攻擊はどういふのであるかと云ふと、苟もゲハイムラートの娘とも云はるゝものが、幾ら何でも軍需品工場に這入つて勞働者になるとは餘りひどい、女には女相當の務がある、例へば赤十字社の篤志看護婦、其他相當な仕事が澤山ある、それを軍需品工場に這入つて勞働するとは餘りひどい、斯ういふ事を其の新聞に出した、それに答へて出したのが此の手紙である、どういふ事を書いて居るかと云へば、工場に行くまでの經過を話し――即ち陸軍の軍需品の係から色々勞働が不足して居ることを聞いて、女學生であつても安閑として居つてはいかぬ、殊に自分は女學生として、男子の學生が働いて居るのに女子だからとて安閑として居る事は相濟まない、で自分を攻擊した人は女に相應しい仕事がありさうなものだと云ふけれども、軍需品工場に行つてもやはり

女としての優しい所は、之を保つて行くに不都合はない、殊に此の國家が軍需品の不足、勞働力──詰り大勢の男を戰爭に伴れて行つた結果、働き手が少くて不足するといふことであるならば、自分は國家の最も必要な仕事を引受けるのが義務だと考へて工場へ行つたのである、又攻擊する人は幾ら國家の爲めではあるとは云ひながら、人を殺す物を造るは情に於て忍びない、敵であつても人の子である、之を殺すものを造るといふ事は婦人として忍びないと云ふけれども、併し若し戰爭の最中に彈丸が無くなる、或は火藥が無くなるといふことになつたならば、其の場合に男で戰線に立つて居る者はどういふ目に遇ふだらうか、さういふ事を考へれば敵を殺すものを造るのであつても決して忍びないことはない、自分の國の人達に彈丸が缺乏する爲に悲慘な目に遇ふ事を思へば、其の勞力が不足すると云へば其の方に行かなければならぬ、と思つて職工になつて軍需品製作に從事すると書いてある、是れは偶々ゲハイムラートの娘であるといふので問題になつたのでありますが、學生で勞働に從事したといふものは隨分あるのであります。

さういふ風に今度の戰爭では各國國を擧げて戰爭をした、其の場合には此の女子といふものは後に殘つて引受けなければならぬ、而かもそれは唯家を安く治めて行けば宜しいといふのではない、場合に依れば勞働者となつて働かなければならない、斯ういふ事は今度の戰爭では明かになつて居つたのであります、で私共は日本の國がさういふ樣な戰爭の中に這入ることが將來ないことを希望するのでありますけれども、併し此の列國對峙する世の中で、何時日本の國が國運を賭して戰爭しなければならぬ事が起らないとも限らぬ、斯の如き事が來ることを覺悟して居らなければならぬであらうと思ふ、尤も國と國との爭は國際聯盟の裁判によつて極める、個人個人の爭を裁判所で極める樣に、國際聯盟で正義人道を以て、强い方に勝たせるといふのでなく、理

窟による樣にする理想で、現に其の實現に努めて居るのでありませうが、併し夫れが理想通りに出來るといふ事は保證は出來ないと思ふのであります、夫れで此の人種も違ひ又色々の點に於て利害が反して居るものが此の世界の上に竝び存して居る以上、今の樣な國際聯盟といふものが確實に確立すれば格別戰爭しなければならぬ事は早いか遲いか何時といふ事は分らなくても、來るものと覺悟して居らなければならぬ、是れは外に出て歩いて色々の國と接して見、色々の利害關係の衝突する有樣を見れば特にさういふ風に考へる、又日本の國も一戰しなければならぬといふ事を感ずるのです、是れも日清戰爭日露戰爭の樣に一寸濟めば大したことはないが、今度の戰爭の獨逸の樣に負けて了へば、私有財産まで取上げて了はれることになる、國家の滅亡といふことになるのであります、さういふ時は滅多に來ないとしても、又何時かは來ると覺悟しなければならぬ、さういふ場合に今申した樣な事を日本の婦人は是非しなければならぬ、從來日本の國の昔からの歷史に徴して見れば斯の如き事は出來ると私は思ふ、又必ずやる氣はあると思ふ、併しながら此の場合に此の體力、——體の强さが果して堪へることが出來るかどうか、是れは私が前々申す樣に、日本の婦人といふものに對して大いに尊敬し滿足して居るのでありますが、併し體力といふ點は、どうも外國に比べて遙に劣つて居ることを感ずるのであります。

私は始めスペインから乘出しましたが、不幸にして獨逸の潛航艇に出會つて引戻し、スペインに戻つて今度は佛蘭西のボルドーから出て亞米利加の紐育に着いたのでありますが、此の頃最も獨逸の潛航艇が出沒する場合でありましたから、撃沈される虞がある、それでちやんと「ボート」は下して直ぐ乘れるやうにしてある、「ボート」の中には水とか食糧品、それから帆であるとか櫂であるとかいふ必要な物を載せて、乘客には「ボート」を割當て、お前は此の「ボート」お前は此の「ボート」と定めて、そして浮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を一つ呉れる、是れは帶になつて、くるつと卷く樣になつて肩から掛けて締めるやうになつて居る、それで海の中へ這入つても首だけは浮いて居る、さういふものを呉れて潛航艇が來たら乘る舟まで定め、出る前に練習して、自分の「ボート」の所に集まる練習をして出掛けるといふ樣な譯でありました、從つて乘客も多くは此の戰爭の用事で歩くやうな人で、遊び客といふものは殆ど無い、又さういふものは船に乘せないことにした、それで船に乘つて居る婦人等は極く僅かでありました。

　で航海中船の中でよく遊戲をする、さういふ時は乘つて居つた西洋婦人もやはり混つてやる、こんな事をして　私の船は潛航艇にも會はず紐育に著いたそれから亞米利加から横濱へ歸つて來ますのに、

　私はシャトルから郵船會社の船に乘つて來ましたが、其の船にもやはり日本の婦人が二三人乘つて居られて、さうして「デッキ」の上で「デッキジャト」をやると、内地に居る人よりもお轉婆になつてやはり出て來てやる、やるけれども一生懸命にやるが向ふまで行かぬ、大西洋を渡る時分には佛蘭西や亞米利加の婦人がやるとずつと遠くへ行くのに、シャトルから乘つた日本の婦人は、二三人一生懸命だが向ふまで行かない、白墨で書いてある所まで行かない、それが特に弱い人であるかと云ふと、見た所必ずしも弱い樣にも見えない、隨分太つてでぶ〳〵してさう弱さうにも見えない、けれども向ふまで屆かない、それで私は考へた、力といふ事體力といふ事では迚も日本の女といふものは適はない、それから知識とか理性とかいふ事。情とか或は溫和で貞淑であるといふことでは決して負けはしませぬが、理性が發達して居るとか體力が強いとかいふ點は、遺憾ながら日本の女は西洋の女には適はないといふことを考へたのであります。

　それで日本の國も滅多にない事ではありますが、日本の國が國を擧げて國運を賭して戰爭しなければならぬ場合が起つた時、何でもするといふ氣だけは

日本の女の人に必ずある、西洋の女以上に日本の國は、さういふ志に於ては強いだらうと思ひますが、體力とか智力、總ての男が出た後で事務其他體力を以て働くといふ、斯ういふ總ての仕事を引受けるといふ事に就ては、氣ばかりあつても力が伴ふかどうかといふ心配が起つたのであります、私は倫敦で祝盃を擧げた樣に日本の婦人達に感謝して居るのでありますが、其の點に就ては尙ほ充分力を用ひて、改良して行く所に利益がありはせぬかと思ひます、詰り私は大體に於て宜いと思ふ、良いが今申した樣に體力といふことと智力といふことを合せて發達さすといふ必要がありはせぬかと考へた、勿論私は素人で敎育に就ては門外漢であるのですから間違があるかも知りませぬが、さういふ考が起つたのであります、それが私の感じました第二の事であります。

それから各國隨分風俗も違ひ又人情も違ひ、色々く國によつて事情が異つて居るのでありまして、家庭なり或は社交上に於ける模樣に就ても、此の御話が餘り短かつたら御話しやうと思つたが、約一時間近くになりましたから私の御話は是れで終ります、詰らぬ話でありましたがよく御聽き下さいまして御禮申上げます。

叢談

外科叢談

ドクトル メヂチーネ　吉川春次郎

一、外科とは

人々は外科なるものを如何に理解して居るでありませうか、外科は臨牀醫學の主要なる一科である事は何人も承知して居る事でありますが、偖て眞に外科學の醫學上の立場を呑み込んでゐる者が幾人ある

でせうか。

甚だしいのは「外科」と「切る」とを結びつけてゐる者のある事です、之れこそ誤解も甚だしいと云はねばなりませぬ。切る必要の起らぬのに何うして切りませう、「切る」と云ふ事は外科の仕事の一部分であります、内服藥で治る見込みがあり、膏藥や塗布液の應用で消散する望みのあるものを何うして「切る」事をしませうか。「切る」事は外科であると云ふのは誤りではないが、外科は切ると考へられるのは誠に遺憾な事であります。例へば一つの癤腫（「フルンケル」「ねぶと」）が出來たとする、之れが切らねばならぬ狀態にあるなれば切るのは當然である。疼痛が劇烈であるとか、切らなければ經過が甚だしく延びるとか云ふ場合には、切らざるを得ぬから、或は切つた方がよいから切るのである。若しそれが極初期であつて、膏藥や罨法藥を用ゐて治る見込がある時期であるならば、誰がいきなり之れを切りませうか。又末期の癤腫であつて、既に自ら破れて膿汁が盛に流れ排膿が充分行はれてゐると云ふ時期であるなれば、之れは切開を施すまでもなく、最早自然的に、切開法を施した場合と同一の狀態になつて居るのでありますから、之れに刀を加へる道理はないのであります。「外科」即ち「切る」の迷想は速に打破せられん事を望む次第であります。

外科は外部である、身體の表面又は表面に近い部分を扱ふ醫術であると考へて居る人々が少くないやうでありますが、之れも亦正鵠を得て居りませぬ。昔時は外科の領域は體表部に限られたるの觀があつて、斯くの如く解釋せらるゝのは、あながち無理でもなかつたのであります。併し今日の外科は中々左樣なものでありません。近世外科學の進歩は非常なもので、外科學が蹈み込んだ領界は最近著しく增大し、今日は如何なる臟器でも全く外科學と無交涉なるものは絶無と申してもよい程であります。胃及び腸、卵巢や子宮、膀胱や腎臟の疾病の或者が、外科的治療の施行に依つて治癒すると云ふ事は、周知の

事柄でありますが、更に外科治療の手は肝臟、膵臟、脾臟、肺臟、腦、脊髓にまでも及び、是等臟器の疾病の或者は到底外科的療法を措きて他に治療の道なき事が諒解せられて居る時代であります。一言すれば、現代の外科は既に一切の臟器に向つて進歩の足跡を印し、今尚ほ絶えず治療の領域を擴張しつゝあるのであります。皮膚、筋肉、骨等の損傷疾病は今日の外科の領域から見まするﾞと、ほんの一部分たるに過ぎません。

既に現今の外科は其對手が身體臟器の全部であるとしますれば、彼の内科とはどう違ふかと云ふ事になります。此問題を一言に云へば、治療的手段の相違と申してよいのであります。元來外科に屬する疾病と、外科に屬せざる疾病との間に、劃然たる區別がある理ではありません。同一病症でも、疾病の輕重時期等によつて、内科的療法を可とする場合と、外科的療法を必要とする場合とがあります。之れが内科醫に外科的智識――自ら外科的技術を行ふと行はざるとは別として――の必要があり、外科醫に内科的智識の必要のある所以であります。極端に申すなれば、内科醫と外科醫とが餘りはつきりと區別されて居る――又は醫師自ら區別して居る――事は不合理とも考へられるのであります。内科醫外科醫の區別を全然撤廢し、總ての醫師が内科的智識と外科的智識との充實を期し、或疾病に向つて全醫學的能力を傾注するなれば、之れこそ理想的と申してよいと思ひます。

それならば「外科は病を醫すに外部よりする」ものであると認めてはどうか。此觀察は外科を單純に「切る」科と認めたり、外部の傷病を扱ふものとしたりするのとは解釋の趣が大分違つて居ります。併しながら此説明を是認するには、一寸斷つて置かねばならぬ事があります。それは「外科は病を外部より治す」と云ふ事と「内科は病を内部より治す」と云ふ事とを、疾病治療法の二途として考へてはならぬ事であります。内科と外科とを斯く區別する事は誤

謬を生じ易い、卽ち一つの病を治すのに外科法と內科法とあるの觀念を與へる事になります、之れは誤りです。內科的治療と外科的治療とは、同一疾病に對する治療の二途ではなくして、此二者の區別は、疾病の種類、輕重、時期等により、前者を可とする場合と後者を必要とする場合あるより來つたものである事を、充分に辨へて居らねばなりませぬ。茲に盲腸炎の例を擧げます。盲腸炎は內部から內科的にも治す事が出來、外部から外科的にも治する事の出來るものであるとの考は間違ひであります。盲腸炎にも種々な種類があります、種々な時期があります、夫れによつて內科的療法を採るべき場合と、外科的療法を用ふべき場合との別が起るものであります。今盲腸炎が破れて蔓延性化膿性腹膜炎を起し、手術に依らなければ到底治癒する見込みがない場合とする、此場合には手術を施さゞるを得ないのであります。盲腸炎の發病後三四日と云ふ時期に手術を加ふると結果の惡い事がある＝危險である＝かう云ふ時期には特別の異變の起らぬ限り先づ〳〵內科的に扱つて經過を觀る、此場合は內科的療法が適當なのであります。

觀來れば、「外科とは」の問題の解釋は中々六ケ敷い事であります、併しながら吾々は斯く考案を續ける間に、自ら外科と云ふ事、外科の領域等に就て略ぼ諒解を得たやうにも思はれる。つまり外科は治療的手段の特殊なるが爲めに臨牀醫學の一科として設けられたもので、素より身體の部分や臟器の種類に何等の制限もなく、內科的疾病と外科的疾病との間には截然たる區界がある理ではありません。而して外科的治療の必要が起つた時、夫れに向て必要なる操作を施す事の出來る醫師を、呼んで「外科醫」とは云ふのであります。

私は此度此誌上に執筆するの光榮を得ましたのを好機會として、外科常識の普及の一端ともならうかと思はれる事をぽつ〳〵書て見る事に致しました。其手始として今回此一章を投じた次第であります。

帶と衛生

入澤常子

われ〳〵日本人、殊に日本の女は、戰爭の時よりも寧ろ平時に於て、もつと熱心に眞面目に戰はねばならぬ敵があります、それは結核と云ふ恐ろしい惡魔であります。

大正三年度結核死亡數は左の如し。

一、男　五萬三千二百三十三人
一、女　六萬〇百〇八人（女六千八百七十五人多く）

其内十五歳より二十五歳に於ける死亡

一、男　一萬四千百九十三人
一、女　二萬〇七百三十六人（女五千九百〇三人多く）

男よりも女の結核死亡率が多いといふ統計は、日本にのみ於ける特殊の現象で、外國には例のないことであると、統計局の二階堂保則氏の御直話で承知いたしました。其差は殊に女子として最も大切な十五歳から二十五歳の間にあります。日本の女は、十五歳から二十五歳の間卽ち人間の最も健康であるべき時代に於て、却て多數に死亡するのであります。此事は日本國の人口繁殖に非常な影響であることは、申すまでもありません。其原因は畢竟女が男よりも、結核に抵抗する力がよわい、つまり其體質がわるい結果であるといふことであります。是は、一人の結核患者といふ問題でなくして、實に國家の大問題であります。われ〳〵女たるものは眞劍に考へなければなりますまい。日本の女は一生懸命に結核と戰つて是非打ち勝たなければならんことゝ思ひます。殊に是は今日列國競爭の時代に於ける急務であると信じます。體質のわるい原因は粗食とか睡眠不足とか精神過勞とか運動不足とか其他種々でありませうが、若しも女の智識が進んで來て、衣服に浮身をやつすやうに、健康保持に浮身をやつすやうになれば、必ず

結核に勝つことができること丶、私は信じます。

私は日本の女が、十五歳から二十五歳の大切な時代に、最も多く結核に罹る一つの原因は、日本の帯であると思ひます。殊に近來の若い女の帯の結びかたが、甚だ健康に害のあることは、少しく注意をされる方ならば、氣付いて居られることゝ思ひます。元とは腹部に締めて、後の、みにくい臀部をかくす爲のものであつた帯を、近來は高く胸部に締めて、後は衿元近くまで達しさせて居ます。これでは胸廓を甚しく緊縛して居る譯になります。凡そ結核に打ち勝つには、まづ肺を強くする必要がありますのに、このやうな服裝で、なんで肺が強くなれませうや。私は昔の御殿女中のよい姿勢及び其長命なることを考へて、其原因の一つが、恐らくは帯のしめかたであらうかと考へましたから、試に昔の人のやうに、肋骨弓の下から帯を締めてみました。然るに非常に呼吸が樂になりまして、誠によい心持になりました。それから私が自分の呼吸をはかつて見ますと十五ありました。普通に帯をしめてはかると十九即ち三つの差がありました。つまり帯を低くした時は、深い呼吸で、高くした時は、淺い呼吸になるわけであると思ひます。淺い呼吸では、充分に肺がひろがることができませんから、結核にかゝる危險が多くありませうと思ひます。然しこれは私の一人のわづかな經驗でありましたが、此程圖らずも丁度醫學士藤井貞氏が學術的に精密に調べられた立派な證據が出ましたので、同氏の御許を得て、左に掲げておきました。どうぞ婦人方は、よくおよみ下さい。そして結核といふ敵と戰つて、立派な勝利を得て頂きたいと存じます。

但し今日の帯は有害であるから元來廢した方がよいと思ひますけれども、只今急に廢することが出來ないならば、せめて其締め方だけなりとも改良する必要があると私は思ひます。

日本帶の呼吸運動に及ぼす影響

醫學士　藤井貞

これは藤井學士が、日本帶の呼吸運動に及ぼす影響に就て研究せられた論文の一節で、我邦婦人の是非一考を要する事でありますから、著者の許を得て玆にこの大意を御紹介することに致しました。（編者）

そもそも呼吸の方法には、肋骨呼吸と横隔膜呼吸との二樣がありまして、男子は主として腹式呼吸、即ち横隔膜呼吸を營み、女子は胸式呼吸、即ち肋骨呼吸を營むものであると云ふ學說は、歐米諸國に於て從來一般に信憑せられて居りましたけれども、東洋の婦人が腹式呼吸を營み、歐洲の少女は胸腹式呼吸を營むことが明かになり、今日では、胸腹式呼吸が男女を通じて正常の呼吸型であると云ふことに一致することになつたのであります。而して私は肋膜炎の後療法、即ち肋膜炎に罹つた人が幸に治癒は致しましても、その病氣をやつた方の一側の胸廓が牽引つて充分に擴がらず、從つて其方の肺に空氣が充分に入らぬと云ふやうな事は有りがちの事で、略ぼ恢復した後に所謂後療法と云ふことが必要になります。そこで私はこの肋膜炎の後療法に就て研究を企てました際に、先以て日本の婦人が盛に用ゐる所の伊達卷と云ふものが呼吸に如何なる影響を及ぼすものであるかと云ふことを研究しました。

そこで先づ健康なる女子十人に就て、總ての條件を同一にし、言ひ換へれば、帶を殆んど同一程度に締め、仰臥位をとらしめて、帶を用ゐない時と、帶を締めた時との一分間の呼吸數及び肺の潤量を檢査し、それからマレー氏の「プノイモグラフ」と云ふ器械を應用して呼吸曲線を描かしめて比較研究し、更にX光線によりて横隔膜の意思的下行運動、即ち故意に吸氣をして胸を膨らし横隔膜を腹部の方へ壓下げる所の運動を檢査して見たのであります。

（此處に上記の表と呼吸曲線圖が在るのでありますが、編輯の都合上遺憾ながらこれを省略することになりました。編者

その表で見ますと、伊達卷を中等度に締めました時には、一分間に於ける呼吸數は增加して、平均正常呼

吸數を十九こ致しますこ、それよりも增加して、二十二位こなります。これに反して肺の潤量は減少し、正常よりも千二十瓩も減じ、平均約三十%だけ降る、而して最低は十二%で最高は三十二%であります。

又呼吸曲線を描きますこきには、患者に仰臥位をこらしめマレー氏の「カルヂオ、プノイモグラフ」を用ゐ、胸廓の呼吸運動の形を曲線にて描かしめたのであります。

尚ほこの器械の使用法や時間の計り方などの精しいここは略しますが、兎も角も胸廓を締める帶は、餘り締めないやうにし、氣が落つくを待つて曲線を描くのですが、此際本人には勿論その曲線の描出に氣を留めぬやうにさせるのであります。

斯樣にして得た所の曲線圖に就て檢べて見ますするこ、各個の呼吸は淺表くなり、吸入時にも呼息時にも困難になるこごが解かります。又伊達卷を中等度に緊く締めます時には、胸廓上部の呼吸運動は左程旺盛こなるものでなく依然こしてその曲線は帶を用ゐない時の曲線よりもその高さが低い、卽ち既に安靜時に於てすら身體の豫備的貯蓄力の消費せられたここが明かで、伊達卷を中等度に締めるここそれ自身が呼吸運動を妨げるここ決して少なくないのであります。

「オルトヂアグラフィー」で檢査して見ますするこ、帶を締めない人の乳房が深呼吸時こ強呼息時こに移動する距離は平均四・〇糎で、深呼吸時に於ける乳房こ横隔膜穹部この距離ほ六・五糎であります。今是等の人々に伊達卷を中等度に締めさせます時には、乳房が深吸氣時こ強呼息時こに於て移動する距離は僅かに〇・五乃至一・五糎に過ぎませぬ、而して横隔膜が通常呼息位より深吸氣位に移る時の下行度も亦正常より一・〇乃至一・五糎ほごその下行度を減じます。それ故に伊達卷は呼吸練習の際などには傷すべからざるものであるこ云ふここは明かであります。

榮養分の研究

ヘンリー、シー、シャーマン

これは米國コロンビヤ大學食料化學科教授で「チーチャーズカレッヂ」家事學校榮養及食物經濟科主任のシャーマン氏の述べたもので東京女子高等師範學校の學術談話會で翻譯されたのであります。本會會員諸姉の御參考に適當なものと思はれます。（編者）

榮養分定量的研究

身體の榮養分を攝取する作用に關しては、多年に亙りて研究せられたるも、其論議せられたる其榮養分とは、單に蛋白質、脂肪及び含水炭素にのみ關してなりき。而して最近に於ける研究はこの研究を非常に細密錯綜せる點にまで歩を進め、又他に於てはこれを簡明單純なるものに統一せしめたるものなり。

然るに一方に於ては精力に關する研究が行はれ、從つて之に據つて、何故に食物が身體に必要なるかと云ふ問題を統一して、卽ち身體內に於て燃燒を起すためなりとの解決を得、延いて食料とせらるゝ蛋白質、脂肪及含水炭素は、體內に於ける精力の源泉となりて、種々な方面に於て消費せらるゝことも發見せられ、從つて古くより論ぜられし如く、食物の有する原素は常に一定の割合を保ち居らざるべからず、との事も今や放棄せらるゝに到れるなり。

又他の方面に於ては、身體の建營に必要なるもの、卽ち組織を形成し、或は消費を補充する處の原素につきては、今や過去に於けるが如く蛋白質のみに關して論議する能はざるに到れるなり、卽ち其理由の第一は化學的組織又榮養的關係に於ても、蛋白質は、其種類に應じて物質的に各〻相異あり。其第二は、勿論蛋白質は身體に必要なりと雖も、而もこれが完全に具備供給せられたるとしても、實際に於ては、鐵、燐の如き一二の重要なる建營的原素なくては、身體を滿足に養ふに缺くると云ふ事有るが故なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此書は此最新の研究に關して、單に一般の趨勢の大體を研究せむとするを目的とし、其細密なる論據等につきては著者は『食物榮養に關する化學』等他の著に於て既に論述せしを以て之を略す。而して此書に於ては、先ず身體が組織を形成するに要する必要物につきて述ぶる前に、身體が燃燒につきて要する必要物に關して述べんとす。卽ち身體に於て、其組織を保存せしむる力は重に燃燒物の供給如何によるが故なり。

精力　精力は動物の身體に於ける榮養分の使用を全く左右するものにして、この根本的の關係は今より三十年程前にルブネル氏（Rubner）が犬に對して行なへる實驗によりて、發見せられたるなり。又この精力の行なふ身體内に於ける代謝作用は（攝取せられたる物質を燃燒等によりて組織建營又は力を生ぜしむる樣に變化する作用）容易に、直接に且最も正確に測定せらるゝものにして、其手段は呼吸熱量計（Atwater-Rosa-Benedict respiration calorimeter）を用ふるにあり。此機械は又今より僅か十五年前に發明せられたるものなり。

呼吸熱量計によりて得たる效果は多しと雖も、其重要なる三つの效果を擧げむ。第一、凡吾人の體内に於て行はるゝ精力代謝作用は、其れより生ずる熱によりて測定し得るものにして、此の機械によれば其作用の全部卽ち使用せられたる熱及機械的作用の全部を甚だ精細に測定し得らるゝと云ふ事の可能なるを示したるなり。其二、普通の混味せられたる食物は勿論、更に廣汎なる混和物の一定量につきて研究するに、凡そ脂肪と含水炭素とは其熱量（放熱力）に於て共に同等なるものなるが、この二つは亦體内に於ても、蛋白化合物の作用を援け之を節約せしむる點に於いて、或は筋肉運動の源泉たる燃燒材料となる點に於て、相等しきものなりとのことを示せるなり。卽ち普通の目的に於ては、吾人が若し或食物の燃燒價（放散して仕事に變ずる熱の量）を知るならば、もはや過去に於けるが如く、脂肪、含水炭素と

箇々別々に割合を考ふる必要無きに到れるなり。其三、筋肉作用（筋肉が働きてなす仕事）の分量と、精力代謝作用の分量とは比例して起るが故に、箇々別別の人體につきて其筋肉作用を調ぶる時は、代謝作用の分量、即ち其人の食物要求の程度が燃燒價の數字を以て表はさるゝが故に、一般的に人體につき思考するよりも此方法は更に便利にして且正確なるものなりとの事を示したる事なり。

曾つて長期に亘りて行はれたる實驗の示す處によれば國を異にし、風俗、習慣、衣食住に於て全く相似寄らざる二十一歲より三十四歲迄の多くの靑年が、一日に要する熱量を調査して之を比較したるに、各人の食物の要求度は彼等の體重の差に於けるが如く、大差あるものには非ざることを知れり。最近に於て、ベネヂクト氏及カーペンター氏は、年齡に於て又體質に於て、相異ある多くの人を調査して、一つの研究資料を造れり。この資料は斯くの如く多くの人につきて研究せられたる結果なれば、廣き範圍に於ける箇々の人々の、相異を善く示したるものと謂ふを得べし。これ等の實驗は終日引き續きて行はれたるものに非ざれば、一日に於ける各人の食物要求度の適確なる數字を示さずと雖も、人間に於ける精力同化作用のあらゆる方面の、正確なる測定を益益多く示したるものなり。然して斯くの如く、或は其人種に、或は年齡に、或は體重體格に於ける精力の同化作用を調査、比較したるに其差異は曾つて信ぜられたる如くに大なる差異あるに非ざりしことを明にせり。

又曾つて得たる種々の研究の結果を參考とし、並びに熱量計を以て得たる精確なる資料によつて見るに、所謂個人的特質等は毫も其の精力同化作用に關係を及ぼさず、即ち食物要求度につきても何等の關係なきこと、明白となれり。然らば此食物要求度の差異を起す積極的主動的原因は如何と云ふに、これ即ち其身體の活動、年齡、大きさ及組織の差異等なり。而してこれ等の要求は其關係を及ぼす處頗る廣

く、實に世人が原因を所謂個性、氣質或は性の相異猶進んでは、氣候或は季節に原因すと思考する。すべての現象も、要するに前に擧げたる原因の然らしむる處のものなり。

普通成熟せる者に於ては、其活動は、年齢其他の要素よりも更に優りて、精力代謝作用、即ち食物要求度を左右するものなり。普通の體格の人にて、充分に食物を攝取し、而かも安逸なる生活をなす人に於ては、一日平均二千乃至二千二百「カロリー」（熱の量を表はすに用ひらるゝ單位）の代謝作用をなすものなり。今若し此人が強ひて、自分の取り得る最大限の食量を攝取したりとしても、彼の代謝作用に得たる熱量は單に十乃至二十「パーセント」增加するにすぎず。

然るに若し彼が筋肉作用を行へば、彼は易々として其熱量を百乃至二百「パーセント」增加せしむるを得るなり。

運動をなさゞる人に比較して百姓は其約二倍、樵夫は三倍の食物を必要とする所以は即ち此處に在るなり。斯くの如き熟練せる筋肉運動に於ては、人間の身體は實に精巧なる機械にして、其機械作用に用ひられたる燃料の作用は割合に於ては、最進の蒸氣機關に於て消費せらるゝ燃料の效率よりも遙かに偉大なるものあるなり。

呼吸熱量計を以て實驗するに、運動せざる時に於ては、其要求する食物の種類及分量略相同じく而かも勞作する場合其機械的能力に於ては大に異りたる人ありとせば、若し彼等に同じ仕事を與へてこれを成就せしめんとする時には、必らず各人異なれる分量の食物を要求する事も發見せられたり。之につきて吾人の體質を研究するに、蒸氣機關と比較する事甚だ便利なることなり。然れども吾人の身體は、機關にては非ざるが故に、極端に文字上に於て比較するは出來得べからざる事なり。

身體に於ては、熱は機關運動の源泉にては非ずして、むしろ副産物か、或はのこり物なり。然れども

一方に於ては、如何にして身體が食物の有する潜勢力を、筋肉運動の力に變ずるかは知り得ざるも、酸化作用がこの過程の一つなる事は、吾人の知り得たる處にして、吾人は、或人の爲し得た機械的仕事の結果と、この酸化作用(卽ち食物が力に變ずる過程中の一作用)に於て、幾何の食物がこの仕事に要するかに轉換せしかを測定すれば、其人が與へられる或仕事を爲す效率(一定の力、或は原料を與へられて、單位時間内に爲し得る仕事の割合を)知り得るなり。又呼吸熱量計に於ける精確なる測定により行はれたる仕事の量に關する研究の結果は、恰も、機械工科の最も進歩せる部門によつて得られたる、精確なる測定に比較して毫も遜色あるものに非ず、又この作用に關する研究は直接食量に關する一日の問題に關しては、何等答ふる處無しと雖も、猶最近の科學的飲食論が根據とする種々の基礎材料を供給し、卽ちこの作用の研究結果は、工學家に對して科學的原理並に數學が必要なるが如く、食物研究家に取つては缺くべからざる材料たるなり。

最近に於てベ子ヂクト氏は、病人の精力代謝作用の研究に迄、この呼吸熱量計を實驗に供するに到れり。

今糖尿病患者に於て見るに、含水炭素の燃燒衰へ、其上肺の容量の非常に減少せしが如き時あるにも拘はらず猶酸化作用又は精力代謝作用の量は、其患者と同年齢同體格の人が、別に活動せざる時の酸化作用又は精力代謝作用の割合と比較して、毫も大差あるを認めず。數多き患者につきて見るも、如何に食量は尠なくとも吾人はこれ等患者の精力代謝作用が、常人の活動せざる時の代謝作用と比較して、弱しとの事を斷ずる理由を一も發見せざるなり。故に病人は、健康なる人が平靜の狀態に在る時の食物より、事實少量の食物を取り、猶前述の如く同量の代謝作用をなす以上は、病者に於ては其成長する力が、不足の食物に代りて燃燒の材料に用ひらるべきものなること疑ひを容れざるなり。今一般の有樣を見る

に、長き病人に對しては、多食する事によりて間違の惹起せむ事を怖れ、これを豫防するために、饑餓に瀕するに至る迄、絶食せしむ。此場合若し代謝作用の理を善く了解せしならば、かゝる愚を演ずる事なくして治療の效果を見るべけん、誠に惜しむべき事なり。又過去に於ける藥劑の處方なども餘りに物質及分量偏重に過ぎ、病者に與ふる食物の命令なども、單に「何々を食すべからず」と云ふが如き、消極的にして所謂杓子定規たるを免れず、嘗てノルデン氏(Noorden)が皮肉的に『「ステレオ」版の印刷の如し』(型に拘泥すること)と云ひしも誠に故あるなり、されば今や識者間に於て、病者は出來るならば同年輩、同體格の人が平常の狀態に於ける食量に、劣らざる食物を取らしむるを可とすと主張せる如き好傾向が仄かに見えんとしつゝあるは、眞に喜ぶべき限りなり。而して病人に對する代謝作用の研究結果の多くの意見が發表せられ、又これが廣く一般の注意を惹くに至らば、病者に與ふる食物は物質及分量に於て如何に處置すべきかに關して更に大なる注意を拂ふに至るべし。

ルブナル氏は、普通の犬につきて研究せるに、體格が大なれば相當に精力代謝作用も增大すと雖も猶精力代謝作用の增加率は必らずしも、體重の增加に對して數學的比例を有せざるものなる事を發見したり。今七封度より輕き犬とそれに十倍する犬とを比較するに、前者は後者の四分の一の熱を消費するものにして卽ち食物に於ては後者の四分の一を要する理なり。又七疋の成熟せる而も大きさの相異なれる犬につきて研究するに、重さを增加すると共に精力代謝作用の增加量は、伴はず卽ち重さの增加する率は代謝作用の增加する率よりも比較的大なる有樣にて、寧ろ代謝作用は其身體の表面積に比例して增加するが狀態なり。この精力代謝作用と表面積との比例を生じたるは、必らずしも體の表面より其周圍に放散せらるゝ熱に原因するには非ざるなり。何とならば、若し犬を其體溫と同じ溫度を保つ室に入れ、

身體より熱を放散することなからしめ前の實驗を行ふ時は、やはり同じ結果に到達するが故なり。是に於てか、精力代謝作用の程度と平常の食量とを左右する主因は、體內に起る作用に歸すべきものにして、他に何等部分的の原因あるに非ず、唯偶然其增加率の比例が表面積の增加と一致せしに過ぎざるなり。

同物質、同密度の固體に於ては表面積は重量の$2/3$乘冪に比例す。(管に於ては、重量は表面積の二乘に比例するに過ぎず)故に大きさの差異は、重量及表面積の增加の割合を變化せしむ。然れども最も成長せる人に於ては大きさの差異は重量と表面積の比に於ける程大なる差異を及ぼすものに非ず。故に大體に於て、食物要求度(卽ち代謝作用の量)を、體重にて言ひ表はすも大なる誤謬を惹起するが如き事無し。

同年齡同型の人に在りて體重の一單位に必要なる食量の差異は、表面積と重量の比、活動と脂肪組織との比、或は筋肉の運動持續の割合の如き、體格の差異を以て說明するを得るものなることを認識するを要す。彼の一種の解釋の如く先天的個性によるものにあらざるなり。

前述の如く、形態の異なれる犬を研究することによりて、小人の體量を以て示されたる食物攝取量と大さとの割合は、之を大人と比較して大なるべきを、期待せられたり。而して實地觀察する處によれば、眞に子供の食慾は、大人と比較して、重量に對する比率も大きく、亦表面積に對する比率も大なり。卽ち子供に食物を與ふるには、餘程多量ならざるべからず。殊に年齡一歲の嬰兒には、其體重と比較して甚だ多量なる食物を攝取せしめざるべからざるものにして、あたかもペアリー等(Peary and his party)が法皇の下に上れる道中に、普通の人の要する約三倍の食物を取りたる如く、嬰兒も實際は普通一般に思考するよりも更に、多量なる食物を要するなり。

熱、攝取せられたる食物が、單に熱を生ずる目的のみにて、燃燒するが如き場合は、云ふ迄もなく身

體の周圍が普通以下の寒冷なる溫度に變ぜる時なり。現今に於ては、吾人は身體を蔽ふに衣服あり、住むに家宅ありて加之、人工的溫度すらも用ひてよく、周圍の溫度を調節す。故に體內の仕事による熱作用は、常に殆んど體溫を保持し得るが如き狀態に在るなり。ラスク氏(Lusk)の信頼すべき體溫調節に關する論説によれば、次の如き結論に達す。卽ち身體を非常に寒冷なる氣溫、殊に寒冷なる風に曝らす時は、身體はよぎなく體溫を保持する爲に、特に燃燒の度を增さゞるを得ざる樣になるものなり。(所謂「化學的調節」なり)然れども、都合よく身體の周圍が溫暖なれば、所謂物理的調節にて充分にして、體溫は普通の精力代謝作用によりて放散せられたる熱にて保たるゝなり。斯くの如く、普通の氣候又は季節の變化が、筋肉運動に差支へを生ぜざる以上は、食料を決する上に於て體溫は左程重大なるものにあらず、勿論實際に於ては、食慾及食物の選擇につきては、明らかに影響を認むれども、そは全く別箇の主因を有するに過ぎず。吾人が寒冷なる時候に比較的大食するは、主に來るべき大なる活動に備ふるための貯蓄にして、又夏期に食量減退を來すは、一方に於ては活動(食量を決する主要なる原因)が遲鈍となると、又一方には冬期より貯蓄せる材料を漸次消費し得るによるなり。

(以下次號)

育兒

子供の育て方

ドクトル　三田谷啓

家庭でこどもを育てる方針を定めること

こどもを育てるときに父、母、祖父、祖母など家

庭の全體が、こどもに對する敎育の方針を一致して置くことが大切です。子供が何か惡いことをした時に父が叱ると甘い母親は『お父さんがあんなに八ケ間敷言はれるけれどもどうせ子供だから、まあいゝのよ』と言つた具合に、父の言葉を打ち消してしまうやうな場合には父の權威も何もあつたものでない。かうなると父の命が却々行はれぬやうになり、遂には母に許り親んで、父を疎ずるやうになる。又幸に父も母も同一の方針で子供の敎育に從事して居ても祖母がいかにも孫が可愛い一天張で善惡の區別なしに子供を愛するやうなことがある。子供は惡いことをして父と母とに叱られると、直ぐ祖母の處へ告げる。すると祖母は『そうかへ、父さんや、お母さんが叱つてもいゝよ、祖母さんが可愛がつてあげるから、あんまりお父さんが八ケ間敷言ふと祖母さんがお父さんを叱り返してあげるから』抔と言ひ出す。しまひには子供が父から叱られると『お祖母さんに告げてあげるよ』などゝ言ふやうになる。かくては父母の權威もなくなつてしまふ。そんな場合には祖母と雖も決して子供に加勢してはならぬ。「お父さんもお母さんも惡いと言はるゝなら祖母さんだつても惡いと思ふ」と言つて一旦は受付けぬ態度に出る。すると惡いことをすると味方はなくなると言ふ考がこどもの心の中に出來て遂には自分で善いことを勉めて行ひ、惡いことをせぬやうになる。女中などを使ふて居る場合にはこの要領を示して置くことが必要である。

こどもの世紀、をんなの世紀

世界の改造、人類の改造、國家の改造、家屋の改造がこどもの改造から初められねばならぬことが明となり、この目的を達するにはこどもを生み且育てる母親の改造と言ふ點に注意せねばならぬことは言ふまでもない。我國に於ても兒童保護問題、母性保護問題の日を追ふて盛に唱へらるゝやうになつたのは右の理由に本づく爲めである。此方面の問題は將來短時日に於て著しい進歩を遂げることゝ思はれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。今は興味の向ひつゝある際である故よく指導し啓發すれば必ず效果を收むるに違ひない。「母の會」「婦人會」などが盛に設けられさては「父の會」までも出來るやうになつた。さうして子供の教養に關する研究をすることが熱心になつた。流行と言へば一種の流行であるが斯かる流行はすたれずに百年でも二百年でも持續することが望ましい。斯くて婦人自己の身體と精神につき、生理的に解剖的に衞生的に研究をなし、次で兒童の教養に關する知識を收めるのであるから、家庭、學校、社會に受くる利益の大なることは申すまでもない。

昔は上方贅六と言つて金と利益の外に何物も顧みぬと嘲られた大阪の如きも、近來は物かはり星移りて「婦人會」「母の會」などの大小の會が盛に行はれるやうになつた。聽衆の熱心さは驚く程である。時勢の然らしむる處であらうが、これと言ふのも各自が自覺しつゝある證據であらう。三千人、四千人の婦人が一堂に相會して數時間にわたる講演を熱心に聽くと言ふやうなことは日本でも爾う多く例はなからう、わたくしは將來尚ほ多くの「娘の會」が出來て、學校卒業後まだ嫁に行かぬ時代の人々が修養する機關の完全を計るやうになると思ふ。進んでは「母親學校」も設けらるべき筈である。地方に於ても斯かる傾向が盛になつて國家百年の計を堅めるやうにありたいと思ふ。

小兒疾病と自然治癒

醫學士　志摩　次郎

左の一篇は去年十月岡山醫學會例會に於ける演説要旨なり。

人は疾病に侵されんとするときは自然的にこれを防禦せんとし又既に侵されしときは自然的にこれを治せんとするの作用を有するものであります。乳兒に就て申せば過飲の場合に於ける嘔吐、これに續く下痢の如きは即ちその好適例であります、故に總て

の疾病殊に内科的疾患の多くは、その極期たると恢復期たるを問はず治療に當ては常にこの自然的現象に對して細密周到なる觀察を加へ、可及的この自然の力を利用しこの作用の上に自然療法を適用し更に進んで藥劑療法、理學的療法その他各種の治療法を加ふべきであつて、斯くして初めて好成績を擧げ得るは諸家の齊しく認むる所で又斯る實例は日常我々が多數接する所であります。而してこの自然治癒の力は實に偉大且つ微妙にして、我々は一般にはこの力を考慮することなくして唯單に人爲的療法のみを以てしては所期の效果を擧ぐることは困難なるのみならず萬一この自然現象に反するが如き方法を執れば如何なる良藥良法も反て無效有害にして無用に患者を苦しむることがあります。例へば前記下痢症の如きは直ちに制瀉劑によつて下痢を止めず寧下劑によつて一層病的腸内容の排除を圖り一方又食餌制限により腸上皮その他の機能恢復を計るようなものであります、これ卽ち自然治癒に乘じこれに適應して行くのであります。而してこの自然治癒に對しては身體及び精神の安靜、新鮮なる空氣、充分なる睡眠と光線、適當なる食餌等は最必要缺くべからざるもので、殊に小兒は年齡小なる程一般にその器官の不完全でその抵抗力も薄弱なれば輕微の障碍も大人に比し影響する所甚廣大にして疾病の際は勿論健康時に於てもよく〳〵注意しないと不測の禍に陷ることがあります。例へば吸入法、洗腸法の如きは時と場合により甚有效なる治療法の一でありますが、時期や體力、年齡等を考へずしての濫用、强行は反て安靜を妨げ睡眠を破り延いては神身共に衰弱せしむる事もあります。これは卽ち自然治癒に逆行するもので折角の良法であるべき筈の吸入灌腸も無效有害と云ふ結果になります。卽ち斯る場合には安靜や睡眠によつて自然的恢復を圖るの利に如かないので然かもこの些細に見ゆることも全般の經過、治癒に及す影響は決して些少ではありません、特に小兒に於て然りでありまして又斯る實例は私は屢々接する所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であります。これには家庭の不用意と云ふ點もありますが、又監督者として醫師の徹底的の指導監督も必要と思ひます。稻葉博士の報告によりますと、小兒猩紅熱患者に於ては初期充分なる安靜(その他の條件も關係すれども主として)を守るときは食餌性質の如何に拘らず固有の猩紅熱腎炎を起すもの甚だ尠ないと云ふことであります。これによれば我々は患兒の嗜好、食慾如何に拘らず牛乳療法を强制する必要もなく又從て欲するものを與へて榮養の恢復を早からしむることも出來ます、これは又一面から申せば如何に安靜と云ふことが自然的治療に向て必要なる一條件なるかを示す者であります。現今治療界の進歩著しく殊に新藥簇出に至ては殆ど應接に暇なしの有樣であります、これ大に慶賀すべき所にて吾人は眞摯なる學者、經驗家の學說實驗を尊重し取捨選擇その適用を期すべきは勿論のことでありますが、唯單に藥劑效力に依賴しこれを過信して自然的治癒の微妙有力なる作用を蔑にするが如きことあれば藥物も亦充分なる偉力を發揮する能はずして豫定の效果を收むることは困難であります。順風に帆を上げて船を進むる如くこの自然現象を基礎としこの自然作用に乘じこれを助け促すが如き方法を用ひて初めて容易に彼岸に達し得るものであります。

又小兒は身體を維持する外發育と云ふ大任を果すために、その要する熱量は比較的大にして、殊に急性疾患の恢復期に至りては尙ほ更のことであります、健康乳兒の「エネルギー」率は七〇乃至一〇〇「カロリー」なるが、榮養障碍の恢復期には屢〻一二〇乃至一三〇或はそれ以上を與へて初めて體重漸次增加、恢復するものもあり。年長兒に於ても同樣の關係にしてその要求は自然且つ正當にしてこれを攝るに非れば恢復且つ成長を營むことが出來ないのであります、然るに間々愼重に過ぎ又は杞憂のため一面から云へばこの當然なる要求を考へざるため必要充分なる食餌を與へずしてために患兒の恢復遲延し又は不愉快の合併症を起すことさへあり、これ即ち

自然的治癒作用に反する結果にして常に我々の注意せねばならぬ點と考へます。

家庭衞生

看病の心得

吉岡彌生

看護法の意義

吾々が平常の健全な生活作用に缺陥を起して病氣となつた時には、必ず醫者を迎へ、その手に信憑してこれが治癒を圖るのですが、醫者の治療は看病と相俟つて、始めてその效果を奏するものであります。看護法は、第一に病人に苦痛を與へないやう、また病氣を重らしめず、なるべく輕い中に、快癒するやうにといふことを心掛けるのであります。尙ほこの疾を家庭一般に傳染せしめぬやうに、又其病氣の爲め、一家の仕事に支障を來たさないやうにするといふこと、これが看護法の重大な意義であります。將た又各個人としては、病氣に侵されることのないやうに、常に自ら心掛けるのが、一層その幸福を增す所以であります。

一に看病

よく世間で、一に看病二に藥といふことを申して、病に醫者や藥は固より必要でありますが、時としては、醫者や藥以上に、看病の有效な場合があります。病人は既に身體が何處かに缺陥を生じて居るものでありますから、親疎の差別なく、大に同情しなければならぬものであります。この同情が病人の爲には大變有力なるものとなるものでありまして、病苦も時にはこの同情のために、大に薄らぐ場合があります、殊に家庭に病人でも出來たときに、一家中が病

人に同情し親切にいたしますことは、大變必要で、また家人としての義務であります、殊に我國の風習として一家内に病人がありますと、その看病は婦人の役目になつて居りますが、これは實に好い美風で、また婦人に相應しい仕事であります。婦人は先天的に凡ての取扱が温和で、その上萬事に注意深いものですから、自然病人の心も和げば精神に慰めも與へますから、つまり是等の關係から病人の恢復を早からしめる場合もあるのであります。

病人の出來た場合の措置

さて一朝家内に病人が出來ました場合に、如何にそれを措置すべきかといふことを申しますと、先づ身體を安靜にさせて、病氣の容子等を考へた上に、醫者の來診を乞ふのであります。當節は醫術も發達して參りましたので、それぐ＼專門醫がありますが、何れの家庭に於ても、平素かゝりつけの醫師を定めて置き、咄嗟の場合に醫師の選擇に心配する事のなき樣にして、一旦この醫師の診察を受けた後、その病氣が特に專門醫を煩はす必要ある時は、この醫師よりその病氣に適應する專門醫に紹介して貰ふことが安全であります。尚ほ一つの條件としては、病人が良醫として信頼するときには、病氣の原因とか容態などを、要領を得るやうに簡單に先方へ通ずるのが宜しい、かう致しまするゝ、醫師もその病氣に應ずるだけの器械及び材料を取纏めて往診して、直にその處置が出來ますので、大に便利なことがあります、例へば出血の際は止血に要する藥品器械、脚氣衝心等の時は食鹽注入器等を持參する必要がありまして、これ等は一時を爭ふものであります。一旦醫師を信頼して其人に任せた上は、何處までもその人を信用せねばなりませぬ。よく世間では、他人からいろ＼／なことを言はれて、無闇に醫師を換へたり、適當な醫師も不信用したりなどする人がありますが、これは却て病人の爲めに不利益であるのみならず、雙方の迷惑になることがあります。

醫師の命令と信頼

さうして醫師の命令は何事もよく服從し、服藥のことは固より用法や手當法などのことも凡帳面に守らねばなりませぬ。若し轉地療法とか、海水浴、溫泉などの必要を感じた場合なども、先づ主治醫に相談し、その命令を俟つてその言に從ふのが宜しい、尙ほ看病に任る人は、充分醫師の指圖を會得して、病氣を治療する上に一層の補佐を加へねばなりませぬ。看病人は單に病人の生理的治癒に力を添へるばかりでなく、病人の精神にも慰めを與へ滿足を感せしむるやうに努力せねばなりませぬ。病人は一般に身體が衰弱すると同時に、精神が非常に過敏になつて居るものですから、傍から成るべく神經を靜め安らかにするやうに、精神的に補つて行くやうに心を盡してやらねばなりませぬ。病氣の經過に依ては醫者と相談して、病人の好む新聞や雜誌位は、或る時期を劃して讀ませるのも宜しいのであります。もともと病人は自分が思ふやうにならないといふて、怒つたり又は少しのことに氣を揉むものでありますから、そこは看病する人がよく氣を付けて、病人の氣の治まるやうに、同情と慈愛を以て病人の氣に逆はぬやうに、注意して看護せねばなりませぬ。

看病人の擧措と病人

看病人は病者をして、不安の念を懷がしめぬことが、最も大切であります。看病人の擧措は一々病者の心裡に深く印象するもので、健康時には些細と思ふことも、病人には大變氣になり、強い感動を與へるものでありますから、看護人は常にその邊に注意して、殊に重病者に對しましては、なるべく精神を安からしめることが、最も肝要であります。若し神經過敏の患者が、これでは迚も助かるまいなどゝ、氣を焦るやうな場合には、時に慰安の策として治癒した人の例などを話して見るとか、醫師の言だといふて、餘り手重い病氣ではないと申された、などゝ作り言らしくなく話し聽かせて、慰安するのが大切で、同情心、慈愛心といふものは、看病には最も大切な要件であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

感情を表に現はさぬこと

また同情心は大層、必要でありますけれども、餘り感情に走り過ぎないやうにすることも肝要であります。この病氣は到底治るまい氣の毒であるなどゝ感情を表に現はして、病人に看破られるやうなことがあつては、却て非常な害を見ますから、同情心は最も必要ではあるが、自らの感情を表に現はさぬやうに愼まねばなりませぬ。

病人の滿足と安靜

平素は極く感情の和かな人でも、病氣となつて、人事不省とか、精神が朦朧たる場合の外、大抵の病氣の時は神經が過敏となつて、看病する人の一擧手一投足が非常に氣になり、間だるくて精神が焦々するものでありますから、餘程機敏に事を計らひ、始終沈著な態度で、然かも病人の心を推量し、病人の要求し口に出すのを待たず、先きに〱と事を運び、その滿足を得るやうにせねばなりませぬ、例へば水が欲しからうとか、寢反がしたからうとか、或は靜かにして眠りたいだらう、と云ふやうなことを、なるべく早く看取つて、病人が口を出さない中、これに滿足を與へるやうに、始終心掛けることが大變必要であります。

精神の慰安

精神上の慰安は病人に取つて第一に必要なことでありますが、日本の習慣として、病人があれば、親戚知己は必ず病氣見舞をするのであります、然もそれが、一々患者に會はなければ、見舞した義理が濟まないやうに考へ、また病人も厭と思ふやうな時でも、折角の御見舞を受けて會はなければ、といふので、病室に通すのが習慣になつて居ります。慰安をして上げたいといふので見舞ふのでありますけれども、こゝは能く考ふべきことゝ思ひます。一々見舞人が病人に會ひますのは、折角安靜にと、家内の者との交渉さへなるべく避けて病牀に在る患者の神經を疲らせるものでありますから、一般の禮義とする所は重んじて、病氣見舞に行くのは誠に美しい習慣

ではありますが、一々病室へ通るといふことは、心しなければならぬことゝ思ひます。

病氣見舞と注意

中には病人を見舞して隨分お節介にも、私が病氣の時には、斯ういふことをしたら治つたから、恁うなさい、あゝなさいと、何か少しでも似寄つた病氣でゞもあると、病人に話して聽かせ、尚甚しい人になると、病人が既に醫者にかゝつて、その醫者を信じ治療を受けて居るのに、どうもこの病氣は腑に落ちぬから、醫者を換へたらどうか、などゝいふことを勸める人さへあるのです。また中には迷信的な話を擔ぎ出して、方角が良いとか惡いとか、または何處の神樣で御祈禱して貰つたら快くなつた、或は何々の御札を戴くとこの病は治るとか、入替り立替り、見舞の人などがいろ／＼な事を話して聽かせますが、唯さへ神經過敏となつてゐる病人に、餘計な心配を與へることゝなるし、また病人は病苦や無聊、またはその他生活狀態の異變などの關係で、精神が弱つてゐる爲め、兎角傍人の言ふことを眞に受けて、あゝ言はれるが、あゝもしたら宜いか、恁うしたら宜いかと、いろ／＼に思ひ煩ふものでありますから、病人の心理も知らず、病症も辨へず彼是いふのは、唯徒らに病人を迷はせ心勞を增すのみであります。その結果却て病氣を重らせる例が幾らもありますので、これでは見舞の本旨に反することゝなります。

病氣見舞と面會

また子供の病氣を見舞ふ人が、子供を喜ばせやうといふ考から、見舞品を持つて行き、子供の前に出す人がありますけれども、子供の病氣には極く僅かなことが障りますもので、殊に食物などは充分氣を付けないと、折角恢復期に向つて居るものも、忽ちにして再び重い方へ後戻るやうなことが多く、それは大人と違つて、慾を制することが非常に六ヶ敷いのであるから、寧ろ初めから病人の前へは出さない方が宜しいと思ひます。病氣見舞を受けた時は、その病狀なども、成るべく看病人から話して、病人は

お目に掛るのですが、さういふ譯で御無禮をする、とかいふ風にして、思ひきつて面會を斷るやうにしたが宜い、これも看病人の役目の一つでありませう。今後はこの邊に對して御注意を願ひたいと思ます。

主婦の任務（承前）

メリー、ルイス、フースト

第四章　住居の選擇

一、住居の選擇の重要な事は、今更言ふ必要なかるべし。

（1）住居の如何は、健康及幸福に至大な影響を及ぼす。

（2）住居の如何は、其使用の目的と、住人の仕事に於ける能率如何に重大なる關係を有する。

（3）住居の選擇は、生活の標準によつて決せられる。

（4）理想的に選擇する時には、植民地的の簡易と清潔と快適とを參酌すべきである。

二、選擇上注意すべき事項次の如し。

（1）職業と關聯して思考する事。

（2）特に、或は一時的であるとしても、家庭の必要とする特別條件に適合するや否やを考ふべし。即ち健康上、特に老幼病人の如何によつて考へねばならぬ。

（3）買物の廉否又は家賃の高低は、果して其負擔に堪へ得べきものなるかを考ふべし。

（4）事務所、學校、敎育及娛樂機關との距離の如何を考ふべし。

（5）閑靜なるか、快濶なるか。

（6）隣家との關係。

（7）建築に關する注意（イ）修繕を要するや否や、（ロ）裝飾及執務について、牀の廣さは充分であるかどうか。

三、借家と家屋の購入。

（1）家賃。

（イ）家賃は、建築について投資せられた金額

の七乃至十%の金額で、七%以下の純益を目論むを常とする。

(ロ) 家主との間に約束書を取り交すべし。殊に修繕に關しては、堅く約束する處あるべし。

(ハ) 差配の利益金は、必らず家主側から支拂ふべきものである。

(ニ) 契約書は、部屋借り、又はアパートメントに於ては簡單であるけれども、普通の借家では甚だ複雜であるから注意して調印せねばならぬ。

(ホ) 家主對借家人の法律は、習慣的に、家主に對しては寛に、借家人に對しては酷である。然も其家主たるや、借家人よりも頭を低くして誓約をするものである。誠に心せねばならぬ。

(ヘ) 造作附の家は短期間住むには經濟的であるけれども、長期間に住むは、不經濟である。安物、又は分を越えた上等な家具は、借家人としては、成るべく避くべきである。借家人と家主との間には、必らず家具目錄を取り交はすべきである。

(2) 家屋の購入。

(イ) 購買手續きは、家事よりもむしろ、法律或は商業の範圍に屬すべき事である。

(ロ) 購買の方法は、今や諸種の手段が行はるるに到つた。(い)建築組合或は貸借組合の手を借りる方法、(ろ)英國で行はれる處の庭園市街(Garden City)の如き、協同建築運動による方法、(は)紐育市に行はるゝ、市內郊外家屋會社(The City and Suburban Homes Company)或は、ザ、ラッセル、セーヂ、ファウンデーション(The Russell Sage Foundation)其他各處に行はるゝ、是に類する運動に於けるが如く、職業相愛主義に基づく方法、(に)更に進んでは、エジソン氏(Edison)の唱導する持運び自由なる型に流し堅めたる、セメントの家屋の方法に據るが如きである。

(以下次號)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

○女子醫學專門學校の光榮

去る十八日午後一時大森皇后宮太夫は　皇后陛下の思召を體して牛込河田町なる東京女子醫學專門學校及び同附屬病院を視察し生徒勉學の狀況を仔細に參觀せられたりと、陛下の常に女子教育に大御心を注がせ給ふことの畏さは然ることながら、同校校長吉岡女史多年の經營苦心は、今や同校の認定と共に特に畏しこきあたりでも聞え上げたる、誠に光榮と謂ふべく、本會は本會評議員たる女史の此の如き光榮を思ふて轉た欣悦に堪へざるものなり。

○服裝改良案

生活改善同盟會にては服裝改良方針を決定すべき目的にて去十七日午後四時半よりお茶の水教育博物館に於て委員會を開き、横手、富田の二委員長及び入澤常子、嘉悦孝子、井上秀子等の諸氏參集左の諸項に就き協議する所ありたりと。

(一)反物の制度及び服地の改良、(二)國民禮服の統一、(三)將來の服裝は洋服か和服か、(四)過渡期に於ける服裝、(五)寢具の改良等

○ナイチンゲール記念祭

去十三日日本赤十字社にては同社事業の開祖とも云ふべきフローレンス、ナイチンゲール孃誕生一百年に相當するを以て同日赤十字社病院にてその記念祭を擧行せり。

○國際兒童保護事業案

瑞西國ジユチヴの赤十字社聯盟本部に於ては三月二日より一週間の豫定を以て第一回赤十字聯盟總會開催せられたる筈にて、日本赤十字社よりも德川副社長及び蜷川博士等出席せり。その會議の內容は日本赤十字社に來著したる同會議事項中小兒保護事業原案は左の如くなり。

一、胎内に在る小兒を保護し其順當の發育を進捗せしむる事

二、疾病又は食糧缺乏の結果虚弱になりたる小兒を再び健康體に復せしめ其順當の成長發育を進捗せしめ且食糧缺乏の影響を未だ蒙らぬ者に對しても其の健康狀態を常に注視する事

三、孤兒を速に救濟する事

四、小兒保護の一案として其の年齢に從ひ之を次の六期間に分つ

（イ）未來の兩親たるべき者の健康狀態を注視する事（ロ）出產前の母に衞生上に注文を與ふる事（ハ）出產時の看護（ニ）小兒の出生時より學齡に達する迄の期間に保護を與ふる事（ホ）六歲より十四歲又は十六歲に至る迄の期間に保護を與ふる事（ヘ）十四歲より十八歲に至る迄の期間に保護を與ふる事

會報

○本會五月例會

五月十七日午後二時よりお茶水高等女學校附屬作樂館に於て本會例會を開く、役員會員の他に女子高等師範學校生徒諸姉の傍聽あり、當日の講師片山醫學博士は、酒害豫防上に於ける婦人の力と題し約二時間にわたりて酒害の眞相、その豫防の必要、これに對する婦人の力の特に大なるものあることを諄々として說かれたり、散會せるは四時過なりき、當日の出席役員左の如し。

田村きよ子　濱尾作子　山口貞子　高木錄子
岸　澄子　小川孝子　三浦敎子　岡山こし子
宮本樂子　吉岡彌生子　（以上出席順）

○男爵夫人關郁子刀自逝去

本會前役員男爵夫人關郁子刀自は去る四月三十日逝去せられの本會は茲に謹で弔意を表す

○入會

新潟支會
幹事澤田イツ子紹介　熊谷タケ子
大橋トシ子紹介　佐々木ツナ子
同　本田ナヲ子
同　須賀田カシ子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

理事　鳩山春子
同　岡田德子
同　山本多穗子
同　三浦教子
同　長谷川仲子
同　高木鐐子
同　天野多喜子

評議員　入澤常子
同　濱田捨子
同　原光子
同　西姅子
同　緒方悅子
同　小川孝子
同　片山龜子
同　丹波貞子
同　田村きよ子
同　中濱芳子
同　松平芳子
同　男爵夫人　古市幸子
同　近藤憲子
同　相磯まさ子
同　菊池峯子
同　宮本樂子
同　瀨川さわ子
同　羽田三緒子
同　服部繁子
同　子爵母堂　仁禮壽賀子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　男爵母堂　加藤鈴子
同　吉岡彌生子
同　高橋孝子
同　男爵母堂　南部隈子
同　山口貞子
同　子爵母堂　松井正子
同　小松勇子
同　男爵母堂　青山孝子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　守屋千代子

大正九年五月二十七日印刷
大正九年五月三十日發行

東京市本鄉區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者　莊司秋次郎

東京市本鄉區駒込林町百七十二番地
印刷者　柴山則常

東京市本鄉區駒込林町百七十二番地
印刷所　合資會社　杏林舍

東京市本鄉區駒込千駄木町五十番地
發行所　私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本鄉區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　良明堂
同市本鄉區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本鄉區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

婦人衛生雜誌第三百五十三號 大正九年五月二十日發行

CAROPIS

カロピス

乞御推奬

カロピスは榎本醫學士の創製にかゝる魚肉蛋白營養劑にして、消化吸收され易き形態に於ける魚肉蛋白の外、有機性燐酸鹽、殊にカルチウム鹽の多量を含有す、輕き肉臭ある、帶黃色の粉末にして、服用し易し、肺結核及同素質者並に神經衰弱、貧血、胃腸弱等の患者、虛弱者の滋養強壯食料として價値あるは勿論、一般に流動食攝取の患者に、蛋白質を供給する場合に好適すと稱せらる。

醫學士 善浪重太郎氏の肺結核患者に就て、カロピスに對する、嗜好、食慾の進退、體重の增減等を觀察されたる十數例の實驗によれば、何れも佳良なる成績を示したり。

【文獻集附呈】

用量 一日十乃至十五瓦を普通とす
包裝 半磅入 壹磅入の二種あり

三共株式會社

本社 東京日本橋室町
出張所 大阪平野橋東詰